

はにい

環境を構成する

平成24年10月15日

「ねえ みてみて！ わたし鉄棒でこんなことができるよ」

「わたしは、こんな急なところ 登れるよ」

「ねえ この匂いかいで、この実いい匂いするよ」

園庭を歩くと、私に向かって、あちらこちらの園児たちから声がかかってきます。



園に入ってまず目に飛び込むのは、カラフルな園の壁。そして、園庭の坂を利用した滑り台やのぼり棒、木登りのできる樹木、山桃の木、砂場の不思議な形をした椅子？などなど。

亀井園長先生は、「幼稚園では、環境に触発されて、自分で判断し遊びをつくる。子どもが自分の世界を創ることが大切なのです。」と話してくださいました。

まさに、子どもたちが遊びたくなる・挑戦したくなるしかけが園にはいっぱいあるのです。

園長先生が太鼓を叩き始めました。軽快なリズムが園庭に響きわたります。すると、集まってきた子どもたちも置いてある太鼓を叩き始め、自然にリズムが重なりあっていきます。叩くのも自由、遊びながら聴いているのも自由、それぞれのスタイルで全ての子どもたちが遊びに参加しています。

「わたしたちは、積み木でおうちごっこをしているの」

「ここは、船の中 料理をつくっているの」



ステンドグラスのような窓、木の柔らかさを感じる積み木、環境から導かれた自由な発想から世界が広がり、また次の世界が広がっていく。

子どもたちがこの環境でどう育つのか。先生方のアイデアや工夫が宝箱のように散りばめられ、子どもたちはずっと目を輝やかせながら時間を過ごしていました。



かながわ元気な学校づくり通信 『はにい』とは、
学校や園が元気になるように…

先生の仕事を受けとる

学校に携わる大人たちがしていることを受けとる

そして、もちろん子どもたちの育ちを受けとる

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp